

## 「主体的に学習する児童の育成」

### ～道徳科における対話的な学びをつくる授業の工夫～

「対話的な学び」に着目し、道徳科の学習過程において「多面的・多角的に考え、議論する」場面を設定し、授業の工夫をしていくことで、主体的に学ぶ児童像を目指した。

#### I 研究の具体的な内容と方法

##### 1 理論研究，学習会

「道徳科における対話的な学びをより深めるための授業の工夫」

講師 峡東教育事務所指導主事 中村 弘和先生

##### 2 児童の実態調査

###### (1) 話すこと聞くことのアンケート

児童が授業中の発表（発信する力）・聴くこと（受け止める力）についてどのような意識を持っているか把握するためのアンケートを実施した。

###### (2) 道徳の学習アンケート

道徳の授業に対して、どのように受け止め考えているか実態を捉えるためのアンケートを1学期と3学期の2回実施した。

##### 2 道徳の授業実践

###### (1) 研究授業

第2・3学年（複式）

授業者 志村 克人教諭

主題名 2年：国やふるさとのよさ

(C-15 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度)

3年：ふるさとの伝統と文化を大切に

(C-16 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度)

教材名「エイサーの心」（教育出版3年）

指導・助言

山梨県総合教育センター副主幹・指導主事 山田 睦子先生

###### (2) 一人一実践

第1学年 教材名「きいろいベンチ」（C 規則の尊重）

授業者 廣瀬きよ美教諭

第4学年 教材名「かっこいいせなか」（C-勤労，公共の精神）

授業者 加藤 幸夫教諭

第5・6学年（複式学級）

教材名「だれかをきずつける機械ではない」（C-規則の尊重）（教育出版5年）

授業者 前島 国学教諭

(3) 互いに学び合うミニ学習会

ア 考え・議論する道徳をつくるために

・ 昨年の実践から

提案者 前島 国学教諭

・ 「発問について学ぼう」

提案者 廣瀬きよ美教諭

イ PCスキルアップミニ学習会・演習「こんなことができる」

提案者 鈴木 敏弘校長

ウ スキルアップミニ学習会・演習「伝わる話し方」

提案者 内田 浩恵教頭

3 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトへの取組

(1) Q-U検査とK13法の実施，結果を生かした児童理解と学級集団づくりへの取組

(2) 挨拶，学習規律への取組

毎朝毎夕の職員室への挨拶，児童会を中心に「挨拶ビンゴ」運動への取組。

(3) 自主学习・学習スタンバイへの取組

1:10 ~	1:55	5校時
1:55 ~	2:00	学習スタンバイ
2:00 ~	2:10	帰りの会
2:10 ~	2:55	6校時

学習スタンバイの確実な実施のため，日課表に位置づけ，全校で取り組んだ。

(4) 「家庭教育/子育てQ&A」「家庭学習の手引き」の活用・アウトメディアに関わる取組

II 成果と課題

1 成果

- ・ 指導主事を招聘しての学習会や研究授業は，本校のテーマに沿った課題や疑問にそった具体的な内容で，学ぶことが多く研究の参考になった。特に複式学級での授業展開については，今後の学級運営をしていく大切な資料となった。
- ・ 研究授業や一人一実践の授業において，理論研究で学んだ「主体的，対話的で深い学び」の実現のための工夫としてあげられた7つの工夫を意識し，生かすかたちで授業実践を行うことができた。導入時や終末でのICT機器の活用，意見の交流や練り上げをしていくときの付箋を使った参加型の学習の手法など，様々な指導方法の工夫を取り入れた授業が実践された。
- ・ 日課表に学習スタンバイの時間を位置づけたことで，スムーズに取りかけられるようになった。それにより自学への取組も定着した。また，コロナ禍の学校休業期間を生かして自学への取組を行うことができた。

2 課題

- ・ 授業実践を有効に生かすためにも，参観後の意見交換や協議する時間を確保できるように計画的にすすすめ，効果と効率を図っていきたい。

III 成果物

- 1 研究授業指導案
- 2 一人一実践の指導案
- 3 児童の道徳意識調査
- 4 各学年ごとの学習のきまり

(研究主任 廣瀬きよ美)